



長瀬町長 大澤 タキ江氏

町長のメッセージ

長瀬町は、雄大な岩畳や四季折々の美しい自然に恵まれ、かつて渋沢栄一翁に「天下の勝地」と謳われた風光明媚な町です。

町では、人・社会・自然のすべてが健康ではつらつとしている町「はつらつ長瀬」を町の理想像として掲げています。町名が「長瀬町」となってから50周年の大きな節目を迎える今年、気持ちを新たに持ち、謙虚な姿勢で「住んでよかった」「いつまでも住み続けたい」と感じていただけるまちづくりを目指し、初心を忘れず町政に取り組んでまいります。

はじめに

長瀬町は埼玉県の西北部、秩父盆地の入口に位置し、四方を宝登山(497m)、不動山(549m)、陣見山(531m)、釜伏山(582m)といった山々に囲まれ、これらの山を源とする沢は、それぞれ荒川に流入している。町の中央を貫流する荒川の両岸に細長く開けた町であり、荒川に沿って秩父鉄道、国道140号が走り、集落や耕地もその周辺に広がっている。町の面積は30.43km²で、そのうち約60%は山林で占められている。

長瀬町は全域が県立長瀬玉淀自然公園区域に指定されており、古くから「天下の勝地」として知られる埼玉県有数の観光地である。特に上長瀬から高砂橋に至る荒川の両岸は、国指定名勝及び天然記念物保存区域として指定されており、岩石段丘、いわゆる「岩畳」の広がる長瀬溪谷では、様々な岩石の他、断層などの地質現象を見ることができる。古くから地質学の研究が行われ、「日本地質学発祥の地」ともよばれており、町内の「埼玉県立自然の博物館」には、岩石、鉱物、化石などが展示されている。

町の南西部にある宝登山には、山麓に寶登山神社があるほか、山頂の奥宮へはロープウェイで登ることもでき、三峯神社、秩父神社とともに秩父三社として多くの参拝者が訪れる。さらに、川下りやラフティングなど豊かな自然を利用したアクティビティでも有名なほか、季節毎に様々な花々が咲き、訪れる多くの人を楽しませてくれる。

★「地域おこし協力隊」の活躍

長瀬町では、「地域おこし協力隊」による町の活性化に向けた取り組みが積極的に行われている。「地域おこし協力隊」は都市地域から協力する地域へ住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などを行う取り組みで、隊員は全国で約6,000名、自治体との個人請負契約または委嘱を受けて活動している。

長瀬町で活動する隊員の一人は町を歩き回っていたときに、ごろごろと落ちていた黄色くて大きな実を発見。気になって聞いてみると、花梨の実とわかった。花梨は喉に良く、ポリフェノールやミネラルも豊富で「落ちていたら美味しく食べてやろう」との思いから花梨の実を農家などからもらい受け、カレーペーストとして商品化した。現在、地元産の野菜などとともにお取り寄せすることができる。



関東一円から参拝者が訪れる寶登山神社

長瀬町概要

人口(2022年4月1日現在)	6,722人
世帯数(同上)	2,891世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	53.6歳
面積	30.43km ²
製造業事業所数(工業統計)	26所
製造品出荷額等(同上)	109.6億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	64店
商品販売額(同上)	58.3億円
公共下水道普及率	68.0%
舗装率	41.2%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 秩父鉄道 樋口駅、野上駅、長瀬駅、上長瀬駅
- 関越自動車道 花園ICから町役場まで約16km

また、長瀬の豊かな自然を生かした「WITH RIVER」の取り組みが隊員を中心に行われている。同プロジェクトは地元の川で地元の子どもたちが遊び、地元の大人たちと共に成長することを目指している。子どもたちは大人といっしょにカヌーやラフティングなどで川遊び体験をするとともに、岩畳や川沿いのゴミ拾いを行い、町を綺麗にすることで環境問題への意識を高めながら成長していく。2023年には関連商品の開発や販売する店舗の開設など事業化を計画している。

★ ウィズコロナ・アフターコロナ

長瀬町の強み・魅力としては、自然が豊か、都心からのアクセスがよい、キャンプ場やアウトドアアクティビティが豊富な点などが挙げられる。新型コロナウイルス感染症の影響があるなかにおいても、そういった強みが発揮され、町内のアウトドア事業は盛況である。

町では、賑わい創出の拠点となる施設の誘致など、通年型の観光を実現するため、町内企業・店舗とのコラボレーション、農業の6次産業化などにより、長瀬ブランドを作る取り組みを進め、アフターコロナを見据えた観光コンテンツの充実化を目指している。

★ 移住・定住の促進

長瀬町では様々な移住・定住のための施策を実施しており、子育てをする上で子どもにとって理想

的な自然環境があるだけでなく、子育て支援金の支給、様々な母子健康サポートに加え、入学祝い金の支給、通学費や給食費の一部補助などきめ細かなサポートを行っている。

特に、定住促進事業住宅取得奨励補助金は、人口減少を抑制し定住の促進と地域の活性化を図るため、新たに住宅の取得を行う三世帯世帯、新婚世帯、子育て世帯、新規転入者に対し、住宅取得に要した経費の一部を補助するもので、最大110万円の助成を受けることができる。また、これに併せてフラット35の借入金利を一定期間引き下げる制度も適用可能となっている。

これらの取り組みにより、観光で来る人、移住する人、地元の人にとって、魅力と活力にあふれ、訪れたい、住んでみたい、住み続けたい「はつらつ長瀬」の実現を目指したまちづくりが進んでいる。

(吉嶺暢嗣)



長瀬の川下りと鉄橋を渡るSL